

ひろしまの遺跡

第107号

古墳の引越し、エンヤコラ！！

(三次市 宮の本第24号古墳の移設)



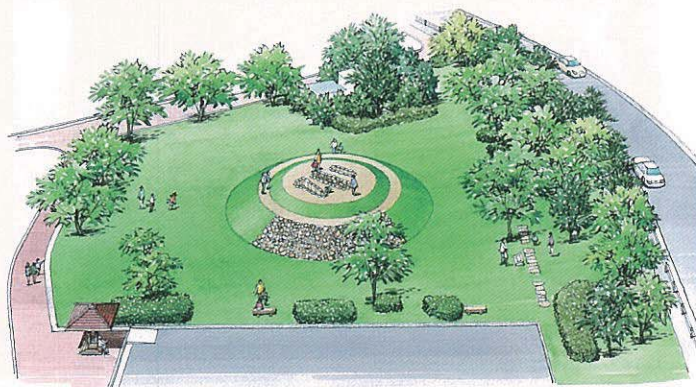
古墳作った人たちもまさか
引越しするとは思わなかったろうね



ひろちゃん



やよいちゃん



移設完成予想図(三次市いにしへの里)

事業速報

宮の本第24号古墳(三次市)の移設

期間 平成23年10月12日～平成24年2月15日

平成19年(2007)に、中国横断自動車道尾道松江線の工事に伴って、三次市向江田町で発掘調査された宮の本第24号古墳を、みよし風土記の丘に隣接する三次市高杉町の「三次市いにしへの里」に移設しました。古墳は広島県北部では最大級(直径30m、高さ4m)の円墳です。

移設は、古墳で最も重要と考えられる墳丘の上段部分を80%に縮小して復元し、頂上部に3基の埋葬施設を置き、地域の歴史学習の教材として見学できるようにするというもので、墳丘には葺石も実物で復元しました。

3基の埋葬施設の移設にあたっては、中央の竪穴式石室(SK1)は構造が複雑であることから石室本体は特殊なセメント製のレプリカを作製して移築することにしました。また二つの箱式石棺(SK2とSK3)は実物を移設することとし、一部失われた石材は同質の石材で復元して補修しました。1600年余りの時を経て、向江田町から高杉町に引越した古墳は、これからどんな活躍をするのか楽しみです。



1 墳丘の盛り土開始 (23.11.10)



2 葺石の復元作業 (23.11.14)



3 石室(SK1)の据えつけ作業 (23.11.25)



5 墳丘完成後の芝貼り作業(23.12.9)



4 石室・石棺設置完了(23.12.9)

平成23年度「ひろしまの遺跡を語る」
古代の東アジアとひろしま -白村江の戦いと寺町廃寺-
 を開催しました



基調講演Ⅰの亀田修一さん



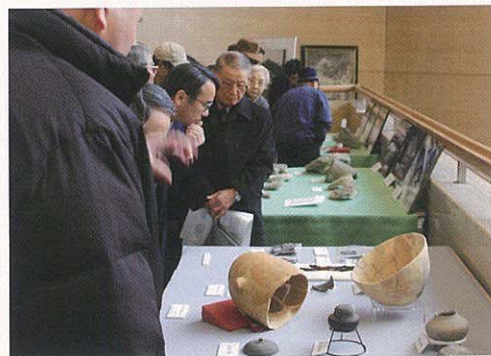
基調講演Ⅱの松下正司さん

日時 平成24年1月21日(土) 10時～16時
会場 広島県民文化センター 多目的ホール
内容
研究発表 「古代ひろしまの渡来系遺物」 伊藤 実
基調講演Ⅰ 「朝鮮半島、吉備、そして備後の寺々」
 岡山理科大学大学院 教授 亀田 修一さん
基調講演Ⅱ 「百済僧弘済の三谷寺をさぐる」
 比治山大学 名誉教授 松下 正司さん
シンポジウム 「古代の東アジアとひろしま」
コーディネーター 広島大学大学院 教授 古瀬清秀さん
パネラー 松下正司さん、亀田修一さん、伊藤実

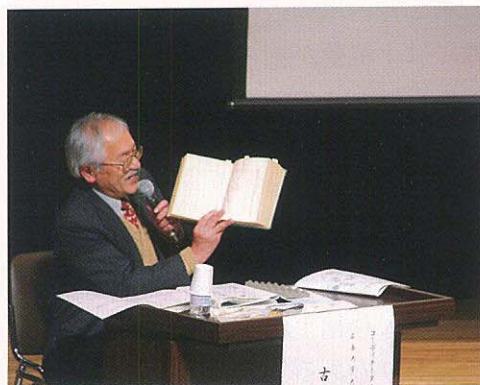


会場の様子

今年の「ひろしまの遺跡を語る」は、『日本霊異記』にも登場する三次市の寺町廃寺をとりあげ、白村江の戦いに赴いた備後三谷郡の大領（郡司）の祖先と寺町廃寺（三谷寺）建立の背景や、寺町廃寺が三谷寺と推定される論証などについて、古代の日朝交流史が専門の岡山理科大学の亀田修一教授や日本の古代寺院や古瓦研究の比治山大学の松下正司名誉教授に熱弁をふるっていただきました。その後、広島大学の古瀬清秀教授をコーディネーターにシンポジウムを行い議論を深め、約200名の参加者に聴講いただきました。この成果は、来年度に記録集として刊行する予定です。



展示資料コーナー



シンポジウムの古瀬清秀さん



寺町廃寺（復元模型・広島県立歴史博物館蔵）

平成23年度

備北地域埋蔵文化財発掘調査報告会V —ハイライト①・集落と古墳—

を開催しました。

備北地域では平成17年度から、中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査を行っています。これまで、多くの古墳をはじめ、旧石器・縄文から古代の多彩な遺構・遺物が見つかり、この地域の歴史像の解明に重要な手がかりをもたらしています。

今回は、これまで行った発掘調査の中から、特に注目された古墳や集落跡4箇所について、その成果を調査担当者がスライドを使って報告しました。

馬洗川北岸の丘陵上に位置する宮の本第20～26・31・32号古墳は、最高所に立地する直径30m余り、高さ4mの大型円墳第24号古墳を中心に9基の直径8.8～14.8の小円墳8基が半円形に整然と造られていました。今回の報告では、最初期の木棺墓（3世紀末～4世紀前半）から第24号古墳（4世紀末～5世紀初頭）、5世紀～6世紀前半の礫床をもつ箱式石棺を中心埋葬とする古墳、そして、6世紀後半～7世紀代の横穴式石室墳へと古墳群内での墓制の変遷について報告しました。



熱心に聴講される参加者



盛況の資料展示コーナー

日	時	平成24年2月25日（土）14時～16時
会	場	広島県立歴史民俗資料館 研修室
内	容	（報告した遺跡）
		・宮の本第24号古墳（三次市） 梅本健治
		・札幌古墳（三次市） 唐口勉三
		・曲第2号古墳（庄原市） 山澤直樹
		・和知白鳥遺跡（三次市） 山田繁樹
		・出土遺物やパネル写真の展示

札幌古墳は、6世紀後半に築造された横穴式石室墳ですが、斜面には鉢巻状の列石が廻らされ、石室内は敷石があり、須恵器のほかに本県では3例目の鉄鋸が出土しています。

曲第2号古墳は5世紀後半に築造された直径約13m、高さ1mの円墳で組合式木棺内部からは短甲や鉄剣などの武具・武器が出土しています。また、周溝内では葬送儀式の実施を思わせる鉄鉾や6個の嵌め子にした須恵器・土師器のほかに赤色顔料が検出されています。第2号古墳周辺には3基の円墳が検出され、周溝内には土坑墓が掘られていました。畿内色の強い短甲出土は、この地域の当時の社会情勢を考える上で重要な発見になりました。

和知白鳥遺跡は5世紀後半～6世紀前半にかけての集落遺跡で竪穴住居跡は35軒ですが、2本柱の住居跡が17軒と多いのが特徴です。なお、多くの住居跡で製塩土器やスサ入り粘土塊が出土していることから鉄器生産に関わりのある集落ではないかと報告しました。

平成24年度
新講座の
ご案内

広島県教育事業団埋蔵文化財調査室のひろしま考古学講座

— 歴史に学ぶ・ひろしまの過去から未来へ —

会 場：広島県立総合体育館（広島グリーンアリーナ）会議室 & 広島市南観音公民館

時 間：13：30～15：30（開場は13：00～16：00）

5月～3月まで毎月2回（土・日） ただし、4・8・1月は休講

広島グリーンアリーナ会場と南観音公民館会場で、時期を替えて同じ内容の講座を開催します。

1 趣 旨

（財）広島県教育事業団埋蔵文化財調査室は、前身の（財）広島県埋蔵文化財調査センターから30年以上にわたって県内遺跡の発掘調査や調査研究を継続し、さまざまな遺跡の情報や調査研究の成果を蓄積してきました。

講座では、これらの成果を現職員とOBの協同で、広島県の歴史や文化の成り立ちについてわかりやすく解説し、郷土ひろしまの考古学の知識を深めることをめざします。

2 受講方法

各 会 場：通回受講は事前申し込み受付（申込み締切：5月21日（月）まで）

申込み方法：電話・ファックス・Eメール等でお名前と連絡先（ご住所・電話番号）を明記して、次のところにお申込みください。

申 込 み 先：〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8-49

財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室

電話082-295-5751 ファックス082-291-3951

Eメール：maibun@harc.or.jp

各回単独受講は、申込み不要（ただし定員を超過している場合は、席が用意できない場合があります。）

3 定員・聴講料

広島県立総合体育館（中）会議室……………100名 聴講無料

広島市南観音公民館第1研修室……………50名 聴講無料









①会場：広島市南観音公民館第1研修室 （財）広島市未来都市創造財団 平成24年度市民アカデミー事業

開催日	講 師	演 題	内 容
5.26(土)	調査室 室長 伊藤実	最新ひろしまの考古学概説	概 説
6.23(土)	調査室OB(安芸高田市教育委員会)川尻真	甲立古墳から考える古墳時代の広島	古 墳
7.28(土)	調査室 調査研究員 山田繁樹	謎の弥生土器・大型甕形土器	弥 生
9.15(土)	調査室OB(芸備友の会代表)脇坂光彦	広島湾周辺の古墳と阿岐国	古 墳
10.27(土)	調査室 主任調査研究員 梅本健治	大型円墳の時代・宮の本24号古墳	古 墳
11.24(土)	調査室OB(日本考古学協会)新谷武夫	装飾大刀からみた古墳時代の広島	古 墳
12.15(土)	調査室OB(広島修道大学非常勤講師)後藤研一	発掘から見直す広島城「嶋普請」	近 世
2.23(土)	調査室 調査研究員 河村靖宏	中国四川省に長江文明を訪ねて	海外の遺跡

②会場：広島県立総合体育館（中）会議室

開催日	講 師	演 題	内 容
6.10(日)	調査室 室長 伊藤実	最新ひろしまの考古学概説	概 説
7.15(日)	調査室OB(広島修道大学非常勤講師)後藤研一	発掘から見直す広島城「嶋普請」	近 世
9.30(日)	調査室OB(日本考古学協会)新谷武夫	装飾大刀からみた古墳時代の広島	古 墳
10.28(日)	調査室 主任調査研究員 梅本健治	大型円墳の時代・宮の本24号古墳	古 墳
11.25(日)	調査室OB(芸備友の会代表)脇坂光彦	広島湾周辺の古墳と阿岐国	古 墳
12.1(土)	調査室 調査研究員 山田繁樹	謎の弥生土器・大型甕形土器	弥 生
2.17(日)	調査室OB(安芸高田市教育委員会)川尻真	甲立古墳から考える古墳時代の広島	古 墳
3.10(日)	調査室 調査研究員 河村靖宏	中国四川省に長江文明を訪ねて	海外の遺跡

4 各講座の講師紹介

	講 師	講師の横顔（プロフィール）や講座内容
	調査室室長 伊藤実	『最新ひろしまの考古学概説』 遺跡の発掘調査や資料館の学芸員を長年してきました。講座では、トップバッターとして最近の発掘成果の紹介や現代と大昔のつながりを考えます。
	調査室OB 安芸高田市教育委員会 川尻真	『甲立古墳から考える古墳時代の広島』 教委ではおもに文化財を担当しています。4年前の甲立古墳の発見から22・23年度に行われた確認調査の結果など、最新情報を紹介します。
	調査室 調査研究員 山田繁樹	『謎の弥生土器・大型甔形土器』 突如、山陰地域を中心に出現する謎の大型甔形土器。県内の出土例とこれまで発表された所説を紹介しながら、この謎について考えます。
	調査室OB 芸備友の会代表 脇坂光彦	『広島湾周辺の古墳と阿岐国』 古代安芸国が誕生する前に安岐国ができていた(?)ことはご存知ですか。広島湾周辺の古墳の特徴を見ながら郷土の歴史を探ります。
	調査室 主任調査研究員 梅本健治	『大型円墳の時代・宮の本24号古墳』 30年余の発掘人生の最後に機会を与えられた有数の大型古墳・宮の本第24号古墳(三次市)を中心に、県北の古墳時代前・中期について考えます。
	調査室OB 日本考古学協会員 新谷武夫	『装飾大刀からみた古墳時代の広島』 5世紀から7世紀の日本と朝鮮半島の交流を研究しています。今回は、装飾大刀を軸にして、古墳時代の安芸・備後の情勢を探求します。
	調査室OB 広島修道大学非常勤講師 後藤研一	『発掘から見直す広島城「嶋普請」』 調査室で修行させてもらった元新聞記者です。近年文献史学から疑問視されている定説「嶋普請」について、最近の発掘成果から再検討します。
	調査室 調査研究員 河村靖宏	『中国四川省に長江文明を訪ねてー謎の青銅仮面と三星堆遺跡ー』 大地震から復興を遂げ急速に発展する四川省成都(古蜀)の遺跡・博物館を巡ってきました。三星堆から劉備玄德まで現地映像を交えて紹介します。

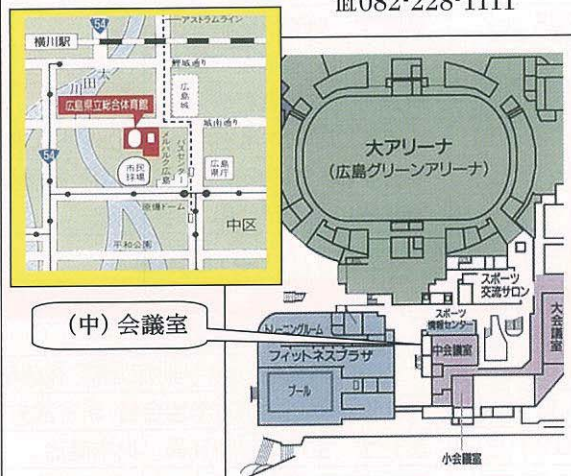
5 会場のご案内

広島市南観音公民館 第1研修室
広島市西区観音新町 2-16-46
Tel.082-293-1220



交通機関：広電バス・③マリーナホップ行き、広島西飛行場行き 観音新町3丁目バス停下車5分
駐車場：7台

広島県立総合体育館(中)会議室
広島市中区基町 4-1
Tel.082-228-1111



交通機関：広電「紙屋町西」下車5分
バス「バスセンター」「紙屋町」下車5分
アストラムライン「県庁前駅」下車5分
駐車場：有料200台(30分-220円)

◎広島市立観音中学校生徒が職場体験学習

観音中学校では職場での勤労経験を通して、社会人としてのマナーや態度を身につけるとともに、将来の希望する進路実現に向け考える機会として職場体験学習を実施されています。同校2年生5名が11月15日から11月17日の3日間来所されました。

当事業団が行っている遺跡の発掘調査から報告書作成までの流れや広報活動などの仕事のなかから、土器の洗浄や復元をはじめ、遺物の収蔵、平板測量の実施（写真）などを熱心に体験学習されました。

生徒たちの感想文には、「私たちが博物館や美術館で当時の形に復元された遺物をみられるのも調査室の作業があるからこそだと分かりました。」「調査室の仕事は日常生活では体験できないことばかりで、どの仕事も達成感がありました。」などと述べられていました。



平板測量中の生徒たち

◎ちょっと 絵図拝見

この絵図は文政3年（1820）の「国郡志下しらべ書出帳（世羅郡堀越村）」作成に伴って描かれました。今回は絵図のなかに描かれた石造物について紹介します。

万福寺（世羅町堀越）の創建の時期については明らかではありませんが、境内域等にある石造物から南北朝期には建立されていたと考えられます。室町時代後期には南方約700mにある岩熊山城（堀越城）主小寺氏の庇護を受けており、天文16年（1547）3月には毛利氏から堂供養として具足（鎧）が、また、小寺敬秀の追善供養料として俵物40表が寄進されたことが記録されています。江戸時代後期には廃寺になりました。

絵図をみますと、谷奥に本堂と庫裏があり、背後の尾根線上に七層石塔婆が描かれています。この石塔婆（広島県重要文化財）は高さ約4.2mで軒先が厚く、軒反りも強調され、広島県を代表する中世の優品です。基壇の下からは礫石経が出土しています。

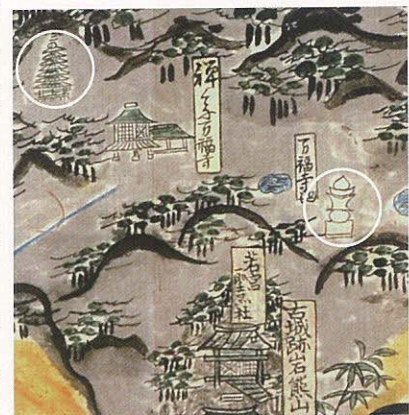


万福寺七層石塔婆

基礎石の銘文に応安3年（1370）の南北朝時代の北朝年号が使用されていることや、造塔の趣旨や近畿地方で活躍した石工銘（藤原行光）が刻まれていることから、当時の世羅郡の社会状況を知る上で貴重な資料です。

また、万福寺池の東側に描かれた石塔は五輪塔形に描かれていますが、現地には高さ2.11mの宝篋印塔が残されています。この石塔は、石塔の銘文から正平12年（1357）に僧契阿が阿弥陀経を書写し埋納した経塚の供養塔として造立されたことがわかります。

本絵図のように、石造物が描かれることは珍しい事例です。これらの石造物は地域の信仰の対象物として、また、歴史的遺産として、今日まで大切に継承されてきています。



世羅郡堀越村絵図（波多野家文書）

広島県立文書館寄託

お知らせ

平成23年度の発掘調査報告書を刊行しました。
ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

	書名	市町名	概要	頒価
1	家ノ城跡	尾道市	南北朝期につくられた大規模な山城で庇付建物跡2棟、倉庫2棟を確認。土師質土器のほか、備前焼、常滑焼、古瀬戸、甕などが出土。	2,000円
2	片野中山第9～12号古墳・右谷遺跡	三次市	5世紀末から6世紀初頭の古墳群で土坑墓を埋葬施設とする。右谷遺跡は古墳時代の住居跡や古代の火葬墓を検出。	900円
3	和知白鳥遺跡2 (古墳時代の調査)	三次市	5世紀中頃から6世紀中頃の竪穴住居跡35軒や7世紀代の横穴式石室墳3基などを確認。土師器・須恵器・製塩土器などが出土。	2,500円
4	段遺跡	三次市	旧石器時代のナイフ形石器のほか、石斧、二次加工のある剥片などが出土。古墳時代の住居跡は5世紀と6世紀後半の2軒を調査。	1,500円
5	川平第1号古墳 常定川平1号遺跡 常定川平2号遺跡	庄原市	古墳は6世紀後半の築造で箱式石棺と考えられる。1号遺跡は6世紀の竪穴住居跡1軒を調査。2号遺跡は縄文時代の陥穴4基を調査。	900円
6	稲干場第2～4・9号古墳	庄原市	古墳は6世紀前半から中頃にかけて築造され、埋葬施設は土坑。古墳の周辺からは弥生時代後期の竪穴住居跡や土坑を確認。	1,200円
7	御領遺跡(第1次調査2008)	福山市	縄文時代晩期の土坑3基、弥生時代の井戸1基、土坑1基、古墳時代の竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡4棟などを調査。	1,000円

平成24年度の発掘調査事業

- ①中国横断自動車道建設事業に伴う調査で、三次市三良坂町長田で三隅山遺跡(弥生時代・集落跡)を調査します。
中国横断道尾道松江線関連では最後の発掘調査で4～6月に予定しています。
- ②国道313号線改良事業に伴う福山市神辺町御領遺跡〔(第5次)、弥生～古墳時代・集落跡〕の調査は4～7月を予定しています。

(財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報

ひろしまの遺跡 第107号

発行日 平成24(2012)年3月28日
編集 (財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号
TEL(082)295-5751
ホームページ <http://www.harc.or.jp>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (財)広島県教育事業団
印刷 (株)エル・コ